

今年の年末手当を上回れるようにしたい？ 職場の奮闘に対しての誠意がそれか？

2021年度年末手当 第3回交渉～会社の考え～

中央本部は11月11日に2021年度年末手当第3回交渉を行ないました。

会社の考え

- ・新型コロナウイルス感染拡大と豪雨災害の影響により減収。第6波の懸念もされている。
- ・要員不足については前回の交渉で聞いて受け止めている。機械化、システム化や働き方改革を展望していきたい。
- ・生活給について否定はしないが、上半期の業績であると考える。
- ・様々な影響により、営業収入は716億7100万円(対計画98.8%)で推移しており厳しい状況ではあるが、経済回復の兆しが見えてきている。
- ・組合の主張を受け止め、現時点では、今年の年末手当を上回れるよう検討したい。

組合の主張

- ・評価制度、要員不足により職場は疲弊している。ボーナスで職場の奮闘に応えないと、モチベーションは下がり、緊張の糸は切れてしまう。実際に、事象と労災は増えていっている。人にしっかりと投資をするべきだ！！
- ・ガソリンや灯油の高騰、物価の上昇分を生活給として、社員に安心を与える気があるのか！とてもではないが、『今年の年末手当を上回るよう』では、奮闘している職場からすれば納得しない！！
- ・感謝の言葉はいらぬから数字でしっかりと感謝を示すべきだ！職場は言葉ではなく、数字で見ているぞ！！強く再考を求めろ！！

経営陣よ！職場をしっかりと見ろ！！

職場環境は会社が考えているほど整っている状態ではない！！